

ホトトギスとモウズ（モズ） ～酒井明 説話集30※～

山里にもようやく、初夏の日差しが新緑から若葉に、木々の梢を変えてきました。田圃の構えから田植えと、一年中で一番忙しい毎日です。

暖かい地方であっても、海に近い里と、山々に囲まれた奥地ではずい分朝晩の冷え込みが違います。大きな囲炉裏では、木の株がくすぶりながら赤い火をちろちろと出しています。

おばあさんは独り言の様に、

「早いもんよのう。今年も田圃仕事がせわしゅうなつたが、梅雨時あんまり降られるとうるさいのう」

孫は黙って聞いていました。

「お前ホトトギスはどういうて鳴きようか知っちょるか」

孫は

「ううん。知らん」

と言いました。

「とってかけたか、とってかけたか、というのはのう、借金戻せ、借金戻せ、いいよるがよ」

「ホトトギスから借金しちょるがは誰じゃろう。キチキチモウズがオンビキ（蛙）捕って木の枝に刺しちょるが、ひょっとして借金しちょるがはモウズと違うか？」

「そうよ、そうよ。よう分かったねえ。雨続きでよう餌をとらいで困っちょったモウズに、ホトトギスがある日餌を分けてやったそうな。モウズもなかなか律儀な鳥じゃから、ただでもらうつもりはない。必ずお礼はするからと言いながらご馳走になったそうな」

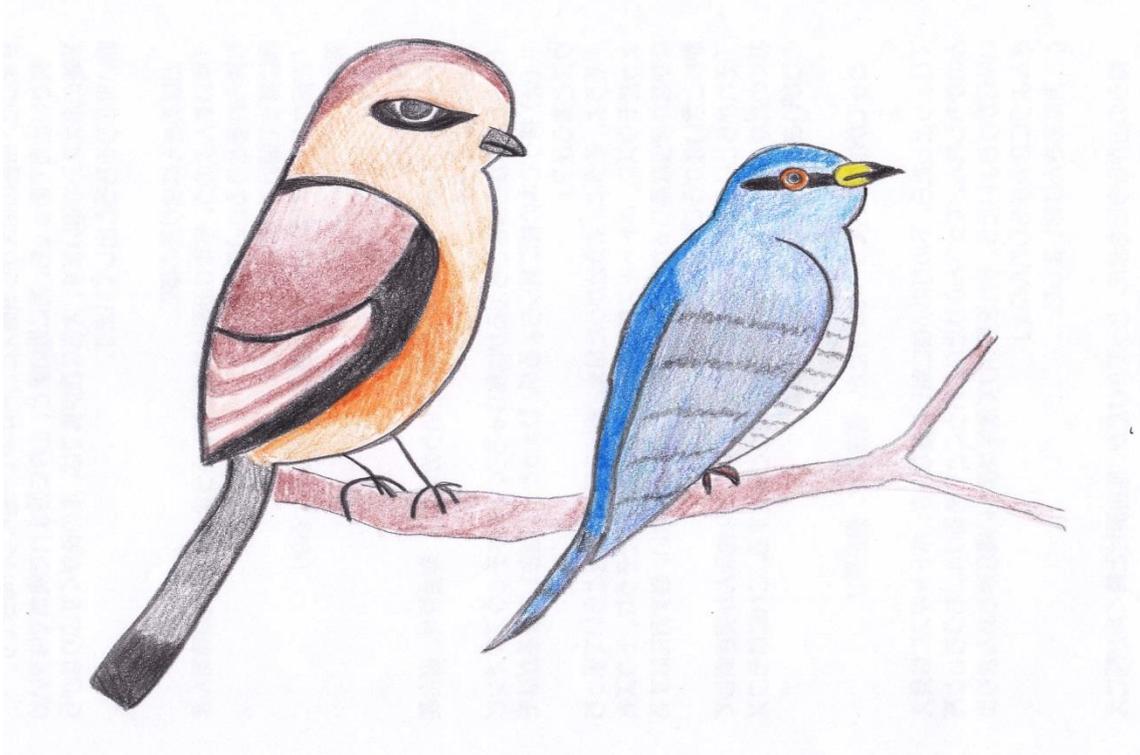
「それからというもの、モウズは木の枝に蛙や小さな蛇なんか突き刺しておくのだが、ホトトギスはやっぱり借金戻せと催促する。これにはモウズの方がいささか困っちょるということだ」

とってかけたか、てっぺんかけたか、借金戻せ、借金戻せ

「ひょっとしたら、下の方の小枝に刺した蛙なんか、ホトトギスには見えんのかもしれん。てっぺんかけたかということもあるけん、もうちいと高い所にかげちょいたら、それを見つけて催促がましい鳴き声もあんまり出さんようになるかもしれんねえ」

と、おばあさんは話しました。

向うの山から今日もまた、とってかけたか、借金戻せと鳴く声が聞こえてくるのです。市内小川方面のお話です。



※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。